



## みんなの想いが一つになって響いた 「世界ダウン症の日」記念イベント

2014年のJDS主催「世界ダウン症の日」記念イベントは、3月21日(金・祝)に東京藝術大学内「奏楽堂」で開催。桜のつぼみがほんのり色づき始めた会場には、一般のお客様や招待者・関係者を含めて、約1,000人が参加。パイプオルガンの荘厳な響きの中、「STEP FORWARD TOGETHER みんなで一緒に前へ進んでいこう」との想いを新たにしました。



### ■圧倒的な迫力のパイプオルガン

奏楽堂にはパイプオルガンが設置されていて、音響環境の素晴らしいホールです。静謐な館内に、清水奏花<sup>かなか</sup>さんによるパイプオルガンの調べが鳴り響き、イベントの始まり。

今回、クラシック音楽を身近に感じていた<sup>フル</sup>だきたくて、名探偵コナン劇場版「戦慄<sup>フル</sup>の楽<sup>スコア</sup>譜」のオマージュとして3曲を選びましたが、オープニングのバッハの曲はその中の1曲。

### ■今年も笠井アナによる温かなトーク

イベントの司会は、今年で3年連続となるフジテレビアナウンサーの笠井信輔氏。温か



許さんとご両親にインタビューする笠井アナ(通訳は楊紘子<sup>ようひろこ</sup>さん)

い思いやりあふれるトークで、会場の雰囲気も和みます。引き続き、主催者挨拶、来賓のご挨拶・ご紹介と続けました。

### ■ダウン症のある方のパフォーマンス

#### 【鈴木凜太郎さんのピアノ演奏】

ショパンの「別れの曲」とシューマンのトロイメライを演奏。鈴木さんは、右手首から先が欠損しているのですが、小学1年生からエレクトーンを習い始め、11歳より両手でのピアノ演奏のレッスンを開始。2009年にはカナダで開催された国際障害者ピアノフェスティバルに出演し、努力賞を受賞されました。

#### 【ダウン症のある人たちからのメッセージ】

日本郵便(株)広島中央郵便局に勤務して3年目になる塩田一樹<sup>たけ</sup>さん(広島県)は、毎日支えてくれるお母様への感謝の言葉を発表し、会場は感動の涙であふれました。

この4月から中学1年生になった渡辺拓<sup>たく</sup>さん(東京都)は、しっかりとした言葉で「ポジティブにがんばろう」というメッセージを伝えてくれました。



第二部は藝大関係者の歌と演奏で華麗にスタート

## 【台湾からストリートミュージシャンも】

続いては台湾からのお客様、許育瑋<sup>キョイクワイ</sup>さんによるオカリナとキーボードの演奏でした。「きれいで楽しい音楽を多くの人と分かち合い、決して諦めないように障害がある仲間たちを励ましたい」とご本人からメッセージ。

台湾からは、許さんご両親のほか、来賓挨拶をしてくださった社団法人 台湾心身障害者音楽関係協会<sup>チンイキ</sup>の陳蔚綺<sup>チンイキ</sup>理事長とその関係者、総勢 8 名で来日してくださいました。

## 【荒川知子とファミリーアンサンブル】

父はフルート奏者、母はピアノ教師、兄は新日本フィルハーモニー交響楽団の首席フルート奏者という音楽一家に育った知子さん。リコーダーでその才能を発揮し、「荒川知子とファミリーアンサンブル」として、数多くの演奏会に出演され、CD も発売されています。

## ■第二部は講演と楽しいコンサート

15 分間の休憩をはさみ、第二部はソプラノの染谷熱子<sup>そめやねつこ</sup>さん、パイプオルガンの清水奏花さん、ヴァイオリンの山崎（エルツ）貴子さんによる「アヴェ・マリア」「アメージング・グレイス」でスタート。会場の隅々にまで響きわたる素晴らしい歌声と演奏でした。

## 【辻井いつ子さんの記念講演】

続いて、今回の目玉企画の一つ、ピアニス



説得力のある子育て法を語ってくださった辻井いつ子さん

トの辻井伸行氏のお母様・辻井いつ子さんの講演「『親ばか』のススメ ～子どもの才能を引き出す法則とは～」。とにかくポジティブで、常に子どもの可能性を信じ、よく見てほめる「親ばか」の子育てで、伸行氏の才能を早期に見つけ、プロのピアニストへ育て上げたその教育理念を語ってくださいました。

「明るく、楽しく、あきらめない」ことと「ほめる」ことという考え方は、障害があろうとなかろうと共通の、子育ての基本であると感じさせられました。

## 【井上あずみさんとゆーゆさんのコンサート】

次はお待ちかね、ジブリ映画の主題歌などでおなじみの井上あずみさんと、ゆーゆさんによる親子コンサート。「さんぽ」「となりのトトロ」「6 さいのバラード」など、みんなが知っている名曲では、立ち上がって踊ったり手拍子をしたりする人も。お二人が客席に下りて観客と握手やタッチをしながらの歌には、会場“大コーファン”で歓声が沸き起こりました。

最後は、許さん以外の歌手・演奏者が再度ステージに登場し、会場の観客も全員立ち上がって、編曲者の石黒夕貴子さん指揮で「翼をください」を大合唱。ダウン症のある内海隼吾<sup>じゅんご</sup>さんもソロを担当。まさに「みんなと一緒に前へ進んでいこう！」との想いを一つにした瞬間でした。【広報出版委員：山本 昌子】



「井上あずみ&ゆーゆ」コンサートでは会場と一体に！



## 約 1,400 人が鑑賞 英国発の写真展 「ダウン症 家族のまなざし — Shifting Perspectives —」



3月21日から30日までの10日間、東京・外苑前にある「伊藤忠青山アートスクエア」で写真展を開催しました。伊藤忠商事株式会社様の全面的なご支援で、素晴らしいギャラリーで意義深い写真展となりました。アートや写真に興味のある方も多数来場され、広くダウン症への啓発を図ることができました。関係各位に深く感謝いたします。【写真展担当理事:上原 公子】



## ■英国からベイリー夫妻をお迎えして

写真展の監修者であるリチャード・ベイリー氏と、今回の写真展に作品を出展されている奥様のフィオナさんがイギリス・ロンドンから初来日。3月25日(火)夕方からは、関係の皆様にお集まりいただき歓迎の交流会を開催しました。



ロンドンから写真展のために来日されたベイリー夫妻

## ■日本を代表する写真家、橋口譲二氏と

日英写真家対談として、3月29日(土)には、リチャード氏と橋口譲二氏とのギャラリートークを開催しました。橋口氏はNGO組織「APOCC」を主宰。写真家として各々の被写体との向き合い方など、大変興味深いお話を伺うことができました。



橋口譲二さんとリチャードさんの日英写真家対談の冒頭

## ■庄野真代さんのギャラリーコンサート

3月23日(日)には、世界28カ国・132都市を旅した後、NPO法人「国境なき楽団」を主宰されている歌手の庄野真代さんが登場。「飛んでイスタンブール」をはじめとするおなじみの曲から、しっとりとした歌い上げる最近の曲までが、心に沁みました。



平和への想いを音楽に託した「セプテンバーコンサートJ P」も毎年9月に開催している庄野真代さん

## ■体験会も好評だったヘルマンハーブ

最終日の3月30日(日)にはヘルマンハーブの演奏会を開催。ダウン症のある息子さんのためにドイツの父親が開発したのが、この楽器。日本ヘルマンハーブ振興会の梶原千沙都会長ほかダウン症のある演奏者(家族も含む)計10名が奏でてくれました。



最終日、清らかな音色に包まれたヘルマンハーブ演奏会